

サステナビリティ報告

2020年7月



株式会社 シード



証券コード
7743



シードは創業以来、『眼』の専門総合メーカーとして、“お客様の『見える』をサポートする”を使命とし、日本品質の安全で快適なコンタクトレンズをお届けすることに注力してまいりました。

この使命を全うし、ステークホルダーの信頼に応えるためには、絶えず変化し続ける環境や社会のニーズに、より広く、より深く応え、事業の高度化を図ることが重要だと考えております。

本報告では、まず当社が持続可能な企業成長を続けていくために、どのような理念をもとに組織体制を構築し、社会に必要とされる製品とサービスを提供しているのか、当社の強みと具体的な取り組みを紹介しています。

また、当社の考える環境や社会構造の変化に伴うリスクを中長期で捉え、そのリスクをどのようにヘッジし、またチャンスへつなげようとしているのかについて、考えと方法を示しました。

今後も短期・中期・長期のマテリアリティに関する検討を続けてまいります。
リスクをチャンスに変え、新しい付加価値のある商品やサービスを提供することで、世界中の“お客様の『見える』をサポートし”、皆様のご期待にお応えしていく所存です。

株式会社シード

代表取締役社長 浦 隆 昌 広

- 1. サステナビリティに関する考え方とガバナンス**
- 2. 現在のシードの強みと具体的な取り組み**
- 3. 中長期におけるマテリアリティと対策**

- 1. サステナビリティに関する考え方とガバナンス**
2. 現在のシードの強みと具体的な取り組み
3. 中長期におけるマテリアリティと対策

**シードの使命を全うするため、経営理念を実践し、
社会に必要とされる企業であり続けます**

SEED

使命

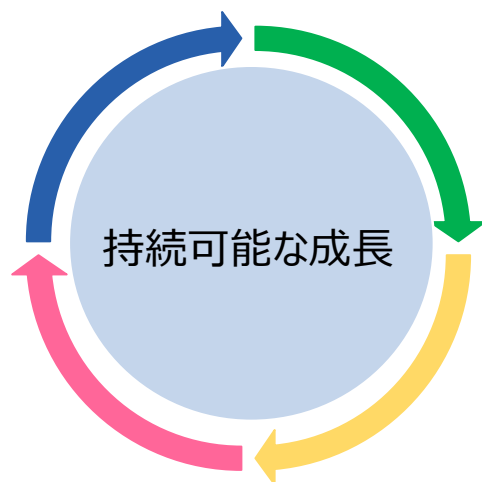
「見える」をサポートします

『眼』の専門総合メーカーとして、お客様の『見える』をサポートする

経営理念

- ・専門特化した研究開発力を基盤に安全かつ高品質な製品を提供し、多くの人々の健康と幸せに貢献する
- ・スピードを重視した経営により、環境変化に先駆けて対応するとともに、お客様のニーズに的確に応える
- ・社員ひとり一人が自発性と創意工夫を発揮できる場を作り、社員の努力に対してしっかりと報いる
- ・良き企業市民として、法令を遵守し、環境・社会・地域との調和をはかり、その発展に貢献する

経営理念に基づいた行動規範の実践により、 持続可能な企業成長を目指しています



行動規範の要素

ヒト

モノ

カネ

情報

1. お客様に対して：ニーズを尊重し、満足いただける安全で有用な製品、サービス等を提供する
2. 株主・投資家様に対して：企業価値を高めることを責務として、透明かつ健全な企業経営を行い、信頼される企業たることを目指す
3. その他ステークホルダーに対して：関係法令を遵守して、全ての関係者に対して誠意をもって、公平かつ、公正に接し、適切な取引を行う
4. 社員に対して：能力向上のための自己研鑽に努め、良識、道徳心を兼ね備えた、自立した社会人としての責任をもって行動する
5. 反社会的勢力に対して：毅然とした態度で臨み、一切の関係を持たない

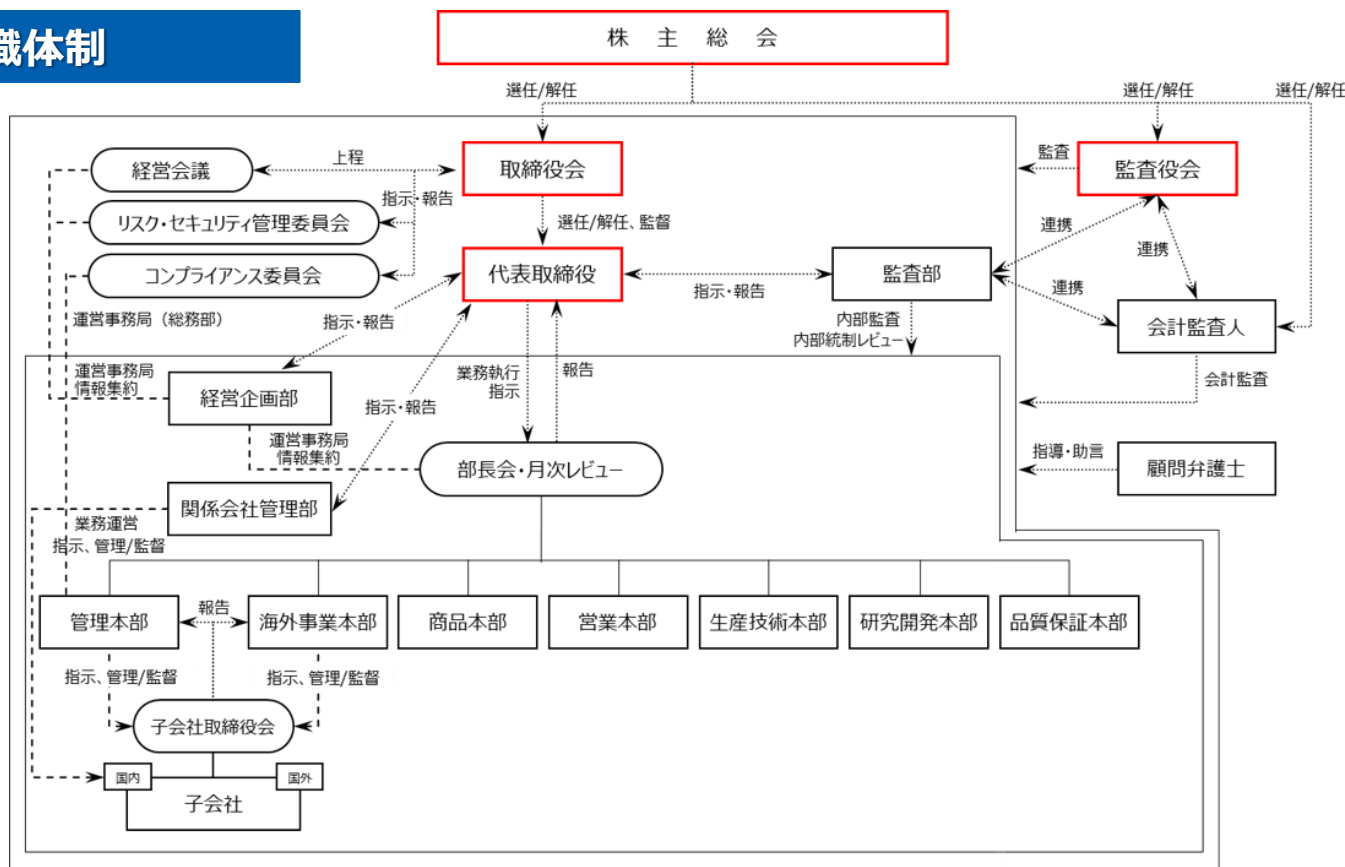
6. 開発・生産活動において：先進的な研究開発を進め、技術力の向上と技術基盤の整備に努め、品質責任を果たす
7. 適正な会計：経営の健全性、透明性、並びに効率性を確保するため、会計情報を正確に記録し、適正な会計処理を行う
8. 会社情報・会社財産の尊重：知り得た会社情報や会社財産を不適切に利用することにより、自己及び第三者の利益を図らない
9. 知的財産権の尊重：事業競争力強化のため知的財産権に関する体制を強化するとともに、第三者の正当な知的財産権を尊重する
10. 広報・広告活動において：健全な事業発展と販売促進のため、客観的事実に基づき誠実に広報・広告活動を行う

コーポレートガバナンスの基本的な考え方

当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」という）は、シードの使命である「『眼』の専門総合メーカーとして、**"お客様の『見える』をサポートする"の達成、及び中長期的な企業価値の向上**を目指しております。これらを実現するために、当社は、コーポレート・ガバナンスを充実させ、株主をはじめとする**全てのステークホルダーとの良好な関係を構築し、透明、健全かつ迅速、果敢な企業経営を行う**ことに努めます。

※一部抜粋/当社コーポレートガバナンス・コードについてはHPに掲載しております。

組織体制



迅速な意思決定と業務執行を重視し 少数精鋭の取締役会と執行役員制度を採用しています

取締役会

経営方針や重要事項について決議する他、業績の進捗状況や子会社に関する事項等について議論しています。また、必要に応じて臨時取締役会を開催し、十分な議論を踏まえた上での意思決定を行っています。

監査役会

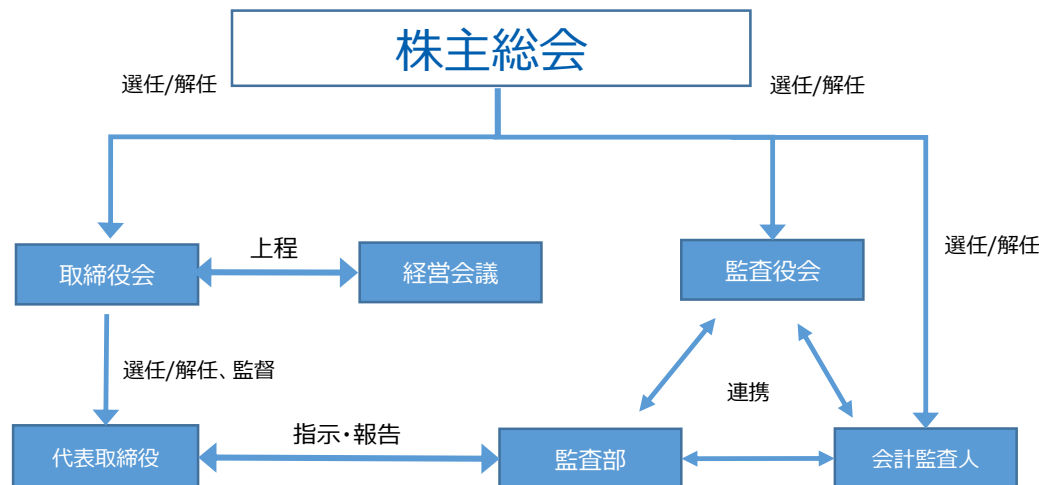
取締役の職務執行を監視・監督。会計監査人とのミーティングの場を定期的に設け、会計基準に準拠した適正な会計処理を実施できるよう情報交換を行うとともに、監査体制の強化を図っています。

経営会議

目まぐるしく変化する経営環境に対応するために、取締役及び常勤監査役、各担当部長らが出席する経営会議を適宜開催し、重要な案件に関する情報の早期共有化と意思決定の迅速化を図っています。

内部監査

社長直轄の監査部が担当し、監査計画及び社長の指示事項に基づき、各部門の業務活動、各種法令、社内規程等の遵守事項を監査しています。また、「内部統制システムに関する基本方針」に基づき、内部統制システムの整備・運用状況の監査も行っています。



役員紹介

取締役



代表取締役社長
浦壁 昌広



営業本部長
細川 均



生産技術本部長
福田 猛



研究開発本部長
佐藤 隆郎



管理本部長
杉山 哲也

社外取締役



小原 之夫



大竹 裕子



中山 友之



種房 俊二



二瓶 ひろ子

常勤監査役

社外監査役

サステナブル経営を実現するために 各分野を専門とする人材を選定しています

取締役		企業経営	当社事業に関する知見	ガバナンス・リスクマネジメント・法務	財務・税務・会計・金融・資本市場	M & A・経営再建	商品企画・生産・技術	化学・工学・薬学・医学	ロジスティクス	国際経験・海外ビジネス
代表取締役社長	浦壁 昌広	○	○	○	○	○	○		○	○
取締役	細川 均		○				○			
取締役	福田 猛		○				○	○		
取締役	佐藤 隆郎		○				○	○		
取締役	杉山 哲也		○	○	○					
社外取締役	小原 之夫	○	○	○	○	○				○
社外取締役	大竹 裕子	○	○	○	○	○				
監査役		企業経営	当社事業に関する知見	ガバナンス・リスクマネジメント・法務	財務・税務・会計・金融・資本市場	M & A・経営再建	商品企画・生産・技術	化学・工学・薬学・医学	ロジスティクス	国際経験・海外ビジネス
常勤監査役	中山 友之		○				○		○	
社外監査役	種房 俊二	○	○	○	○	○				○
社外監査役	二瓶 ひろ子		○	○						○

※上記の内容は、取締役候補者の有する全ての知識・経験・能力を表すものではありません。

適切な管理体制の整備とリスク低減対策により ステークホルダーの信頼維持に努めています

リスク・セキュリティ管理委員会

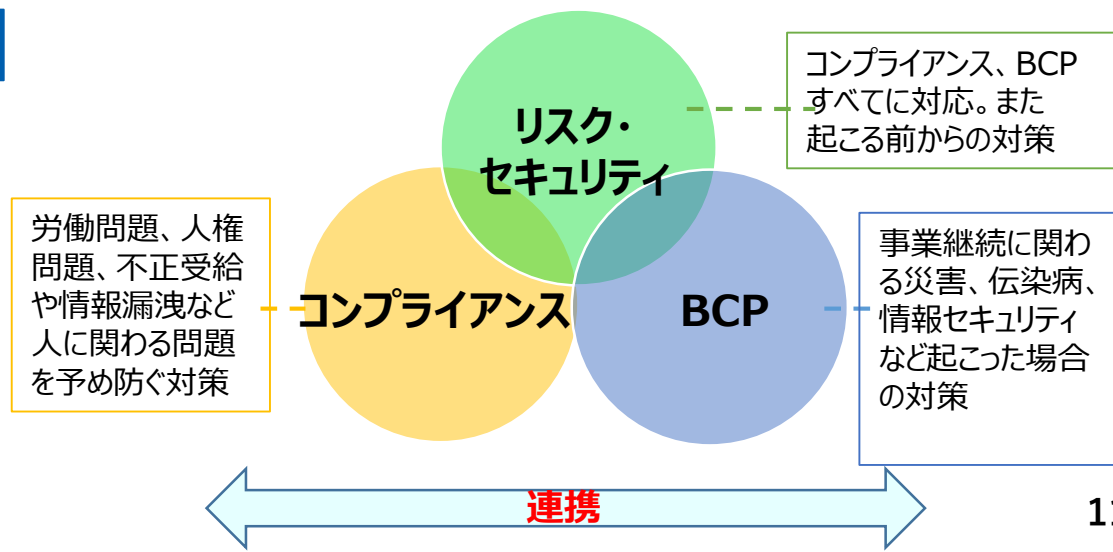
増大するリスク管理に対応するため、社長を委員長とし、必要に応じてリスク案件の洗い出し、改善・回避する施策立案の議論を行っています。また、情報化社会を迎え、情報セキュリティ方針を策定する他、個人情報を含むリスク全般についても監視・管理しています。

コンプライアンス委員会

コンプライアンス体制の充実・強化を推進するために、社長を委員長とした委員会を設置し、適宜開催・議論を行っています。また、匿名での通報・相談窓口を設けて法令の違法行為・反社会的行為の未然防止に取り組んでいます。

BCPプロジェクト

事業継続活動の発動基準に達する災害の場合、または直ちに業務に大きな影響を与えると判断した場合、災害対策本部長が事業継続活動の発動を宣言します。事業継続を阻害する原因事象は自然災害、伝染病、情報セキュリティ、経営環境の変化など多岐に渡ります。



1. サステナビリティに関する考え方とガバナンス
- 2. 現在のシードの強みと具体的な取り組み**
3. 中長期におけるマテリアリティと対策

全てのステークホルダーとの信頼関係の構築を 最重要項目と考え、相互利益に貢献します

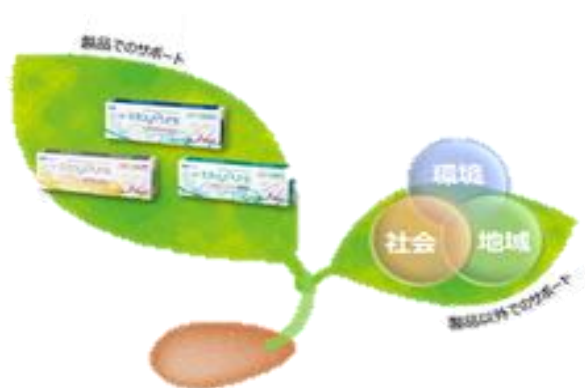


人間が受ける情報の80%以上が
目から入ると言われており、視覚は大切なものです。



シードは「見える」をサポートするという使命のもと
安全で高品質な製品をお届けしています。

これからも当社製品を通じて多くの皆様の「見える」をサポートし
社会に貢献して参ります。



製品やサービスでお客様のニーズに応える①

SEED

「見える」をサポートします

商品ラインアップの拡充により 一人でも多くの方の「見える」をサポートします

■純国産Pureシリーズ



シード 1dayPure
うるおいプラス



シード1dayPure
うるおいプラスFlex

遠近両用



NEW シード1dayPure
EDOF

■Fineシリーズ



シード1dayFine
UV plus



シード2weekFine
UV plus

■サークルレンズシリーズ



シード Eye coffret 1day UV M

シード Eye coffret
1day UV M TORIC

乱視用



シード 1dayPure
うるおいプラス乱視用



シード 1dayPure
マルチステージ



シード 2weekPure
うるおいプラス



シード 2weekPure
うるおいプラス乱視用



シード 2weekPure
マルチステージ

国内最大の度数範囲と常備在庫



■ケア用品



フォレストリーフ

ビュアティモイスト

ジェルクリンW

■眼鏡



プラスミックス

ビビッドムーン

NEW



シード Eye coffret 1day UV M
First make



ヒロインメイク1day UV M

■従来型コンタクトレンズ



ハードコンタクトレンズ
全7種8品

ソフトコンタクトレンズ
全4種

■特殊レンズ

シード 虹彩付ソフト

NEW

シード Bi-Expert
ユーソフト

■カラーレンズ

NEW

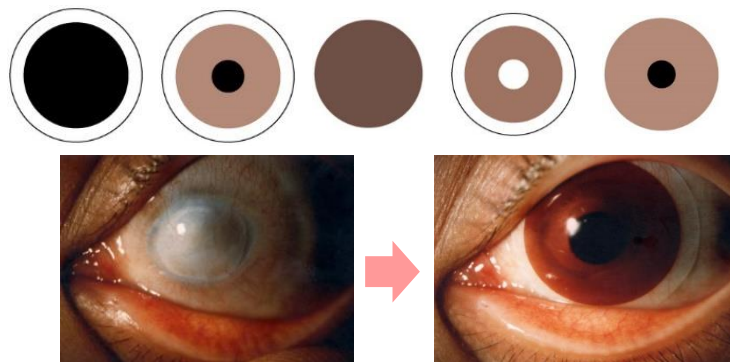


ジルシュアート 1day UV

あらゆるニーズに応え視覚以外の「見える」もサポートします

整容カラーレンズ/虹彩付きレンズ

羞明の軽減および整容目的で開発され、角膜白濁、虹彩異常、瞳孔異常の患者様のためのオーダーメイドレンズです。装用することにより健常眼に近い見た目にすることができます。カラーは4種類、デザインは5種類あり、より患者様の希望に合わせたレンズを提供しています。



Pureな^{eye}愛をありがとうプロジェクト



視覚障害の方の「見える」をサポートするため、公益財団法人アイメイト協会を中心に様々な視覚障がい支援団体への寄付と、視覚障害に関する啓発活動を行っています。寄付金額はシードピュアシリーズの売り上げに連動しており、お客様からのお気持ちとしてお渡ししています。



活動の詳細をブログで月1回ご報告しています。
<https://www.seed.co.jp/blog/eyemate/>

長年コンタクトレンズに携わってきたからこそできる 非コモディティ製品を商品化しています

オルソケラトロジー/ブレスオーコレクト

オルソケラトロジーとは、近視及び近視性乱視の方が寝る時にレンズを装用することで、角膜形状を変化させ、脱着後の裸眼視力を改善させる治療法です。変化した角膜形状は一定時間維持され、その間の裸眼視力は改善されます。



スマートコンタクトレンズ/トリガーフィッシュ センサー・トリガーフィッシュ

コンタクトレンズ型センサーである「トリガーフィッシュ センサー」を検査対象者の眼に装用し、得られた測定信号を「トリガーフィッシュ」にて受信・記録する仕組みにより、眼圧の変化により誘発される角膜曲率の変動を測定し、眼圧変動におけるピークパターンを検出します。



コンタクトレンズだけでない「見える」をサポートするために シードは新しい分野にもチャレンジし続けています

スマートグラス/RETISSA®Display II

2020年3月に株式会社QDレーザの販売代理店となりました。超小型プロジェクトによって網膜に直接映像を照射することで、目で“見る”のではなく、見たいものが目に“映る”ヘッドマウントディスプレイです。映像を網膜に直接投射することにより、映像と背景の両方を同時に見ることができます。将来的には、ロービジョンの患者への活用を目指しております。



動物用コンタクトレンズ/わんタクト・にゃんタクト

人間用コンタクトレンズの知識を活かし、動物たちのQOL向上をさせるため、コンタクトレンズの技術を用いて誕生しました。動物医療に携わる方々の声から生まれた犬種ごとにカスタマイズした角膜保護用コンタクトレンズです。犬種ごとに角膜測定データを解析しており、角膜上で適度に動きながらも脱落しにくい設計です。



近視支援情報サイト/近視進行チェック・近視遺伝チェック

近視は小中学生の間に進行し易いことが広く知られています。生涯に渡って良好な視界を維持するために眼科医等の専門家に相談し、その指導を受ける機会を促すため、近視になるリスクを伝えるためのホームページを開設いたしました。大きな社会問題となっている近視の進行チェックを提供します。



品質マネジメントシステム構築と、徹底した安全管理体制により高品質で安全な商品をお届けします

品質方針

- ・製品と提供サービスの品質をシードの経営活動の最優先事項とし、
患者様・お客様の「見える」をサポートします
- ・品質水準の向上を目指し、PDCAサイクルを回してQMSを不断に維持します
- ・品質に関する法規制を遵守し、多様なお客様の品質要求に応えます

※世界に向けて高品質な製品を提供するために、**ISO13485(医療機器品質マネジメントシステム)**、**CEマーキング**を取得しております。

品質方針を実現するための体制

品質管理・保証システムの構築

営業社員への安全管理研修制度

品質保証及び安全管理の業務体制

お客様の声を収集し反映する体制

※1 法令等に基づいた独自の管理システムを構築し 細部にまでわたり品質水準の向上に努めています

アウトプットの品質保証

経営理念

品質方針

生産方針

適切な生産活動

品質検査実施

生産性向上

安全性確保

不良品を造らない・流さない
ジャストインタイムの追求・量の確保
けがや疾病をしない・させない

インプットの効率化

資材管理徹底

稼働率向上

省エネ推進

有能な人材の育成と活用

ルール遵守

チームワーク

QCサークル

5S

意識

QMS※2の維持

ISO13485認証取得をしており、医療機器産業において製品・サービスの規制に対応し、リスクを低減するためのマネジメントシステム規格を採用しています。また、製品の品質保証を図るため原材料から製品製造、製品出荷までのトレーサビリティ体制の構築にも力を入れています。

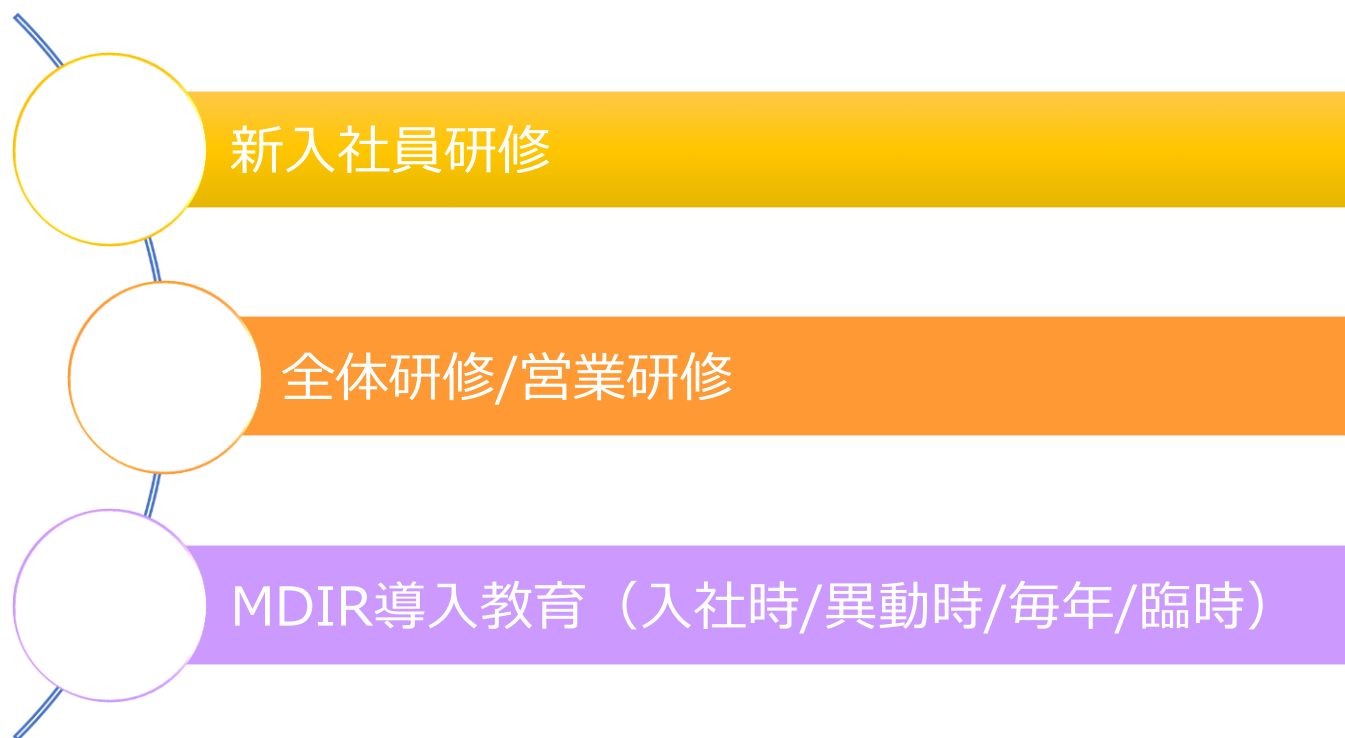
※2 QMS(Quality Management System)はISO(国際標準化機構)が定めた医療機器の品質マネジメントシステムの国際規格(ISO13485)を代表とする法令に準拠した当社で策定した品質マネジメントシステム。

QC活動による改善

生産部・技術部で、Quality Controlサークル活動（略してQC活動）を行っており、半期に一度QC発表会で成果を報告します。優秀な発表に対する、役員からの表彰制度を設けています。中間層を中心としたチームで取り組むことで、中間層のレベルアップとともにチームビルディングの効果も見込んでいます。

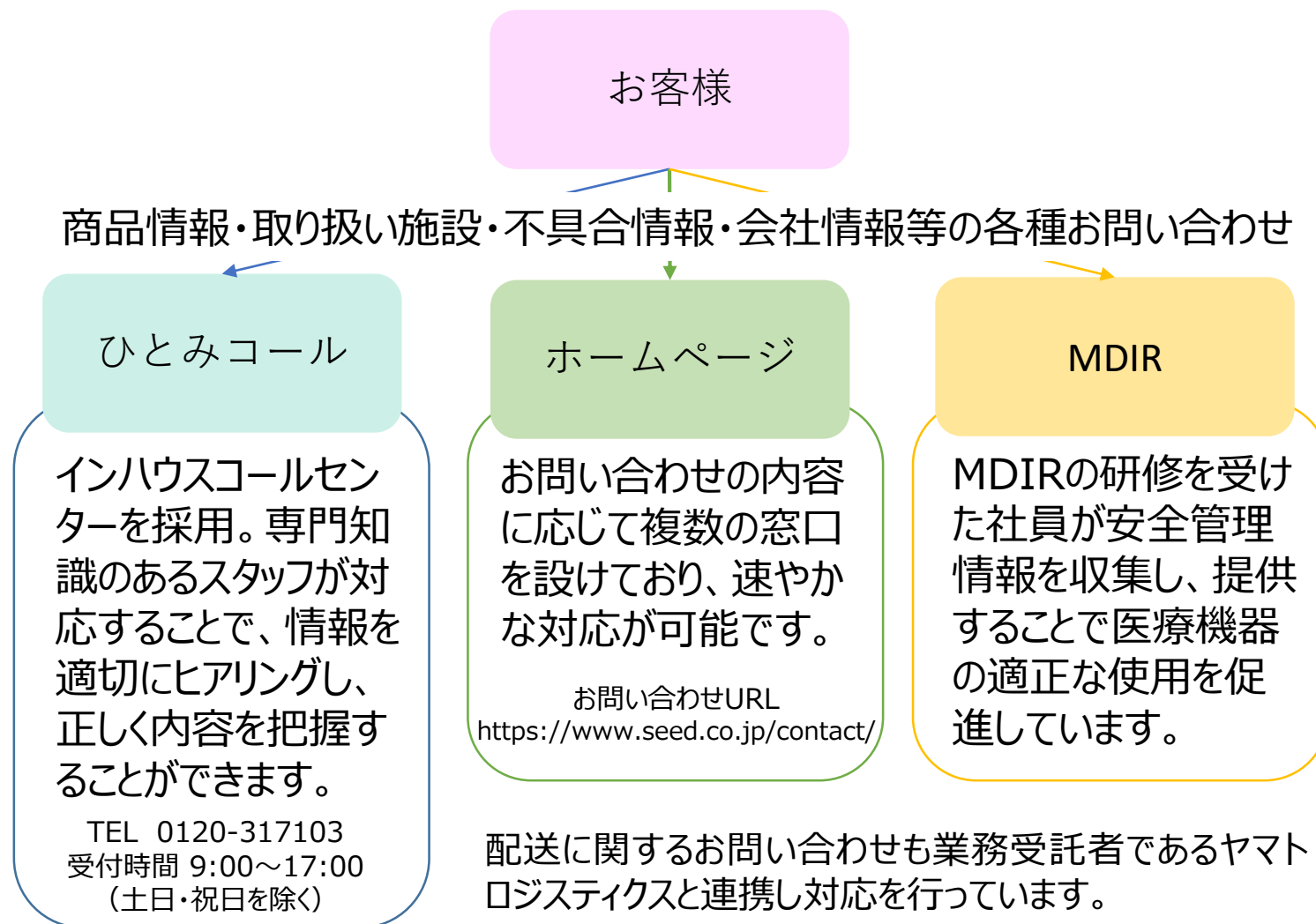
[illegible]

お客様に最も近い営業社員だからこそ 安全確保のため、医療機器や眼科医療 関連知識の教育を行います



全ての営業社員に医療機器情報担当者(MDIR)の研修を義務付けています。

教育を受けた社員が対応することで お客様のニーズにきめ細かく寄り添います



適切なサプライチェーン構築と生産体制の複合化により 製品の安定供給を図っています

BCP調達

主要製品については、自社での最低在庫を確保し、安定的な供給体制を整えています。資材については、ISOの方針に則ると共に、3か月以上の調達を確保しています。また、原材料については複数の供給地点から速やかに代替品が調達できるネットワークを構築中です。

複数倉庫での在庫保有

横浜物流センターはメイン倉庫として全国(一部地域除く)の在庫を保有し、配送を行っています。福岡物流センターはサブ倉庫として設立し、九州・四国・中国地方の一部に配送を行っています。また、在庫保有は1か月以上として災害時などの事態に備えており、災害発生等の際には、いずれかのセンターによって事業継続を行います。

生産体制の複合化

現時点では生産拠点を集約するメリットが高いと考え、主力商品であるPureシリーズは、金型から成形品（樹脂型）、それらに必要な部材などを鴻巣研究所で製造しております。1号棟、2号棟、3号棟と独立した生産棟を設けることで一定のリスク回避を行っています。

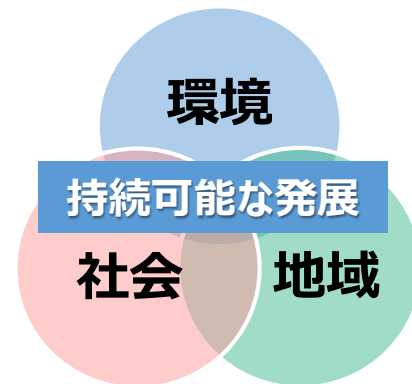
また、海外に2社の製造委託先を持ち、生産の複合化を行っています。

災害等で鴻巣研究所全体が被害に合う場合のリスクを考慮し、中・長期の計画として工場の分散についての検討もしています。

今年度は、倉庫・資材棟を新設し、製品在庫を分散化することで、更なるリスク低減に努めております。

1. サステナビリティに関する考え方とガバナンス
2. 現在のシードの強みと具体的な取り組み
- 3. 中長期におけるマテリアリティと対策**

当社は事業活動を通じて、環境・社会・経済に与える影響を考慮しながら、中長期的な企業戦略を立てております。



これらの取り組みにおいて、SDGsの17の目標を指標の一つとし、積極的に取り組んでまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs（持続可能な開発目標）達成のために シードは様々なマテリアリティに取り組みます

マテリアリティ①環境課題

脱炭素社会・海洋プラスチックごみ対策・プラスチックの3R推進※をキーワードとし、環境への貢献を行います

※3RはReduce(リデュース)・Reuse(リユース)・Recycle(リサイクル)の総称。【Reduce】製品をつくる時に使う資源の量や廃棄物の発生を少なくする。【Reuse】使用済製品やその部品等を繰り返し使用する。【Recycle】廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効利用する。



マテリアリティ②地域・社会課題

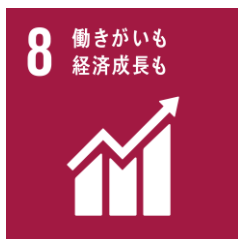
少子高齢化・人口減少による市場構造の変化に伴う新市場の開拓及び、**技術革新によるニーズの変化**を見据えた新商品開発に取り組みます



中長期におけるマテリアリティに関する考え方②

マテリアリティ③多様な社員の確保

これからのシードの戦略を支える社員を確保するため、**働きやすい職場づくり**を行います。また、さらなる成長を促進するため**ダイバーシティ化**を推進します



マテリアリティ④災害対策

企業は常に**自然災害、人災、地球規模での感染症拡大**などの問題に向き合い損害を最小限にとどめつつ、中核事業の継続を行う必要があります。従業員や顧客の**安全を第一**に防災活動に取り組みます。



循環型の事業経営を実現し 環境リスクの低減を目指しています

永続的な成長の実現

継続的な社会貢献

市場からの信頼の獲得

環境に配慮した

- ・材料の調達
- ・備品の購入
- ・LIMEX素材※の名刺を使用
- ・不要になった名刺の回収 **NEW**
- ・販促品の開発
- ・梱包用段ボールのリユース

※LIMEXは、木材や水をほとんど必要とせず、かつ石灰石を50%以上含むため必要な石油由来成分も限定的である環境負荷の少ない素材。名刺100枚で10ℓの水を守ることができる。

材料調達

当社での
活動

消費者の使用

CO₂排出量削減

- ・製品製造時の水道及び電力使用量削減
- ・排水の有効活用
- ・産業廃棄物の削減
- ・生産プロセス内でのリサイクル材料の使用
- ・太陽光発電
- ・プラスチック廃材のリサイクル
- ・ペーパーレス化への取り組み
- ・製品包装資材をよりエコにするための検討

**BLUE SEED
PROJECT**

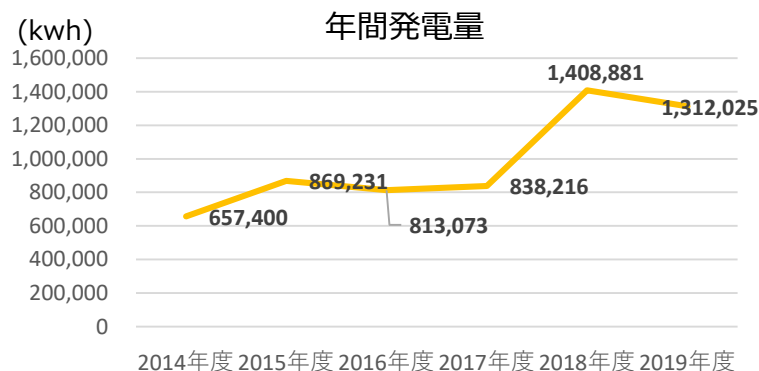
使用済みブリスター
回収によるリサイクル

- ・容器包装リサイクル法に基づいたリサイクル

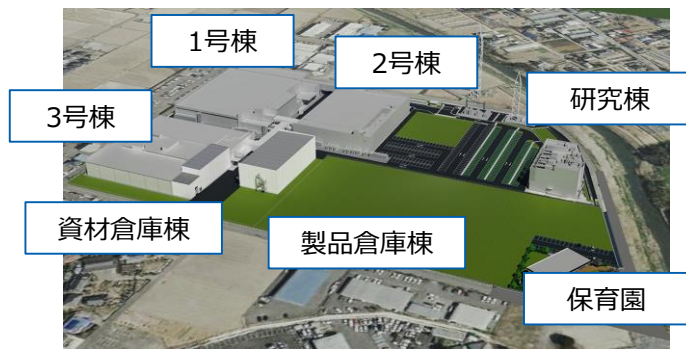
鴻巣研究所は環境に配慮した技術と環境を備え 地球保全にも積極的に取り組んでいます

太陽光発電

1号棟、2号棟、3号棟及び保育・児童施設ふくろうの森の屋上に太陽光発電システムを設置し、クリーンエネルギーと遮熱効果による資源の有効活用を行っています。集めたエネルギーは東京電力へ供給しています。



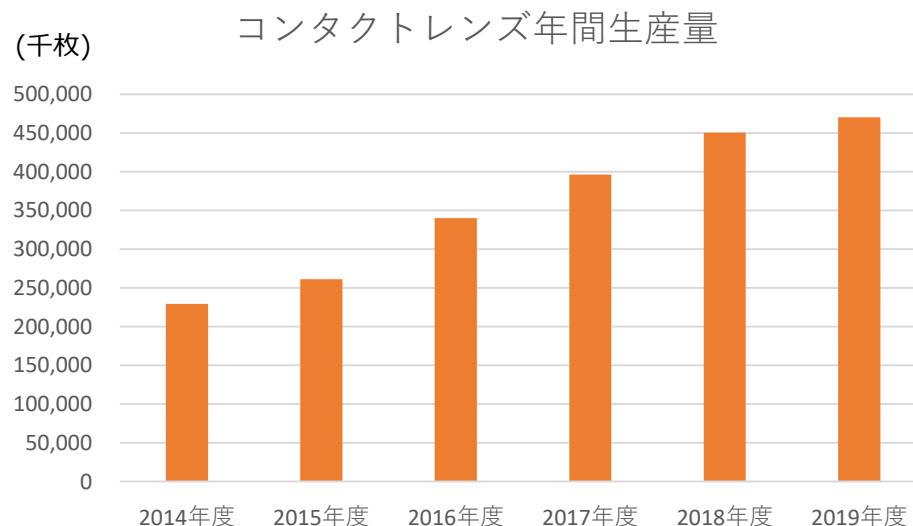
＜鴻巣研究所全体の鳥瞰図＞



生産枚数

シードには3つの生産棟（研究棟を除く）があり、コンタクトレンズ製造能力では国内最大※を誇る工場です。徹底した資材管理のもと、限られた資源を有効に使い生産枚数を増やしています。

※当社調べ



効率的なエネルギー利用（取り組み例）

電気、ガス、水道から、圧縮空気や高圧蒸気に至るまで、使用状況を管理し、ムダのない利用を行っています。



96tのCO₂削減達成

【1号棟・2号棟蛍光灯のLED化】

LED照明は蛍光灯に比べ消費電力と機器本体からの放熱が少ないため空調による負荷軽減にも寄与。照度も使用環境に応じて見直し、全体の電力消費量を抑制。



148.7tのCO₂削減達成

【滅菌用ピュアスチームの排熱回収】

滅菌用ピュアスチームを生成するために利用した熱源（120℃蒸気）の排熱を回収後、ガスボイラー給水タンクへ戻し、給水温度を上げることで、120℃蒸気を作るためのエネルギーを削減。



16.3tのCO₂削減達成

【ガスボイラーの配管保温】

配管部分に保温用ジャケットを装着することで、配管部からの放熱を約20%削減し、蒸気生成のためのエネルギーを効率化。



52tのCO₂削減達成

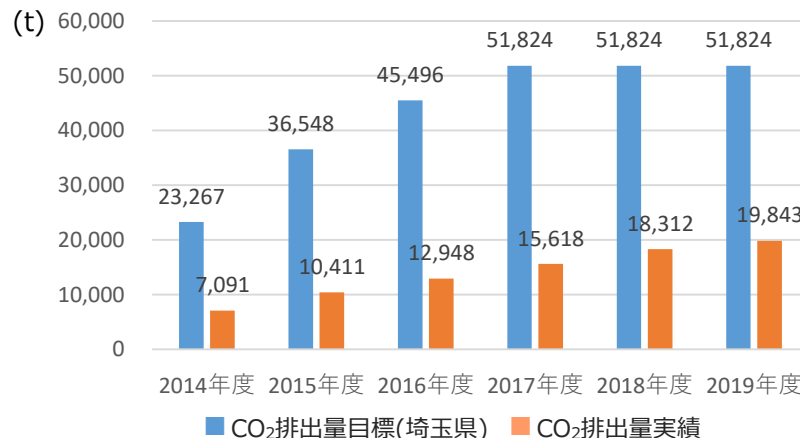
【設備の適切な運用管理】

製造環境を適切に維持するための除湿機の運用方法を見直し、除湿が不要な冬季は停止させることで年間に使用する電力を削減。

Pick up

埼玉県からの当社CO₂排出目標も毎年大幅に達成
売却可能な余剰分約36,000tのうち、
10,000tを埼玉県に寄付しました

CO₂排出量



鴻巣研究所は環境に配慮した技術と環境を備え 地球保全にも積極的に取り組んでいます

水資源の有効活用

コンタクトレンズの製造で大量に使用される純水。
その精製過程で生じる排水も、工場内で再利用できる
システムを構築しています。

プラスチック廃材のリサイクル

製造工程で排出されるプラスチック廃材は、その種類や
純度に応じて、工場内外での最適な再利用を選択し、
リサイクルを行っています。

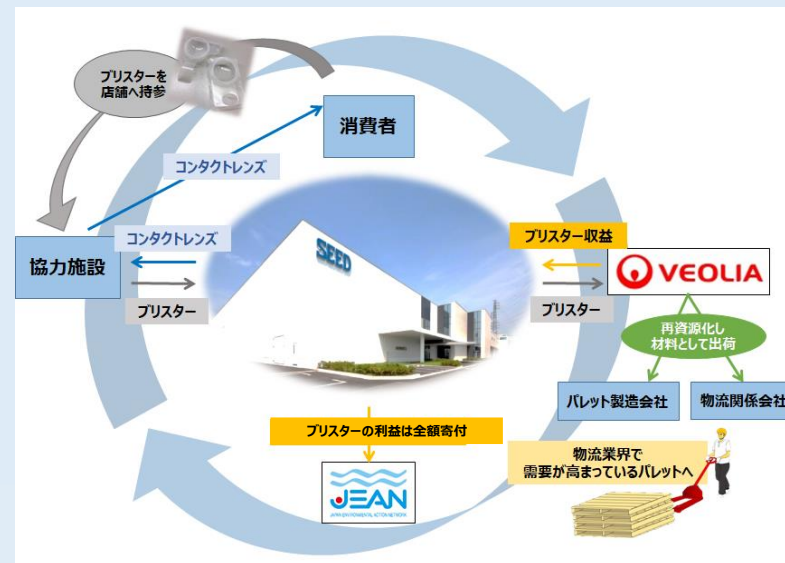


BLUE SEED PROJECT サークュラーエコノミーシステムの採用

使用後の製品を再利用するなど適切に活用し、
資源の無駄を省く循環型のシステム「サーキュ
ラーエコノミーシステム」を取り入れた活動を行って
います。

メーカー問わず回収したブリスターは、ヴェオリア・
ジャパン株式会社に販売し、物流パレットとして
再製品化します。また、販売によって得た利益は
一般社団法人JEANに全額寄付し、さらなる環
境改善につなげます。

**2019年7月～2020年6月までに
520kgのブリスターを回収**

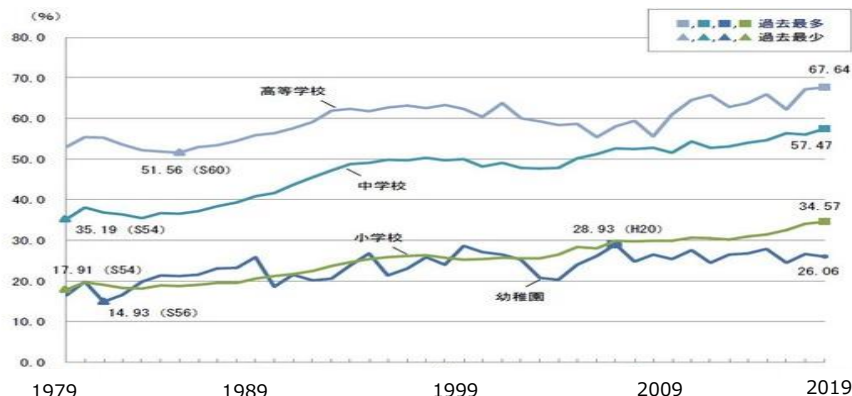


特設サイトURL
<https://www.seed.co.jp/blueseed/>

日本の人口構成の変化に伴う ニーズの変化に応える商品で市場を維持する

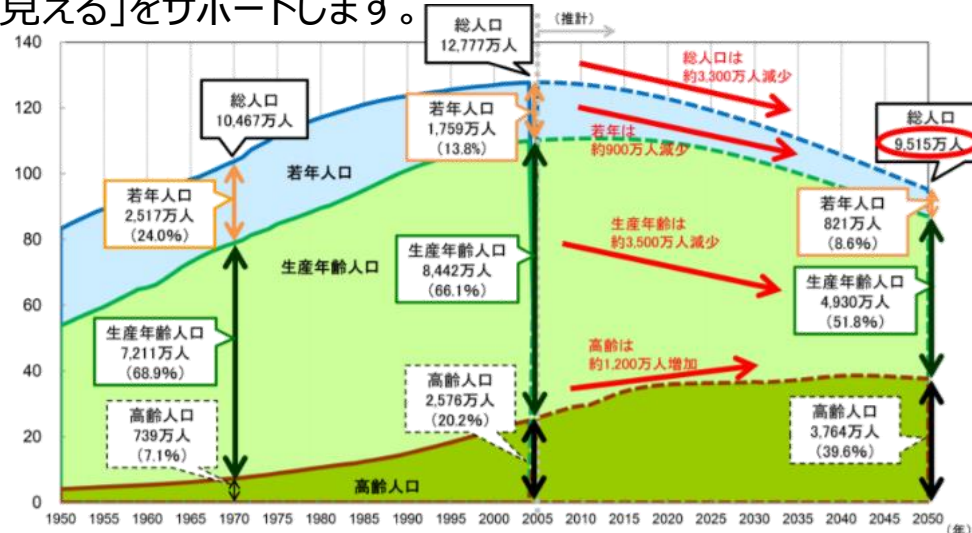
日本の人口は減少しているものの、コンタクトレンズ装用の低年齢化を始め、カラーコンタクトレンズや遠近両用など幅広い年代が様々な用途で装用するようになり、現在の市場は微増傾向です。新しい分野のレンズ開発への挑戦や、今後ますます需要の増加が見込まれる遠近両用コンタクトレンズの拡充などコンタクトレンズ市場を広げるにより、さらなる「見える」をサポートします。

裸眼視力1.0未満の者の割合の推移



市場拡大のシーズ

- ・コンタクトレンズ装用者の低年齢化
- ・遠近両用コンタクトレンズ世代の増加
- ・おしゃれ用カラーレンズの普及
- ・近くを見る機会の増加(PC・スマホ等)



(注1) 「生産年齢人口」は15～64歳の者の人口、「高齢人口」は65歳以上の者の人口
(注2) () 内は若年人口、生産年齢人口、高齢人口がそれぞれ総人口のうち占める割合
(注3) 2005年は、年齢不詳の人口を各歳別に按分して含めている
(注4) 1950～1969、1971年は沖縄を含まない

- 日本の総人口は、2050年には9,515万人となり、約3,300万人（約25.5%）減少。
 - 高齢人口が約1,200万人増加するのに対し、生産年齢人口は約3,500万人、若年人口は約900万人減少。その結果高齢化率は約20%から約40%に上昇。
- 出典：「国土の長期展望」中間とりまとめ 概要(平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会)

長期で見た場合の日本の人口減の影響を考慮し 海外市場への展開を積極的に行っています

ヨーロッパ地域

-  ベルギー
-  イギリス
-  イタリア
-  デンマーク
-  ノルウェー
-  スウェーデン
-  アイスランド
-  フィンランド
-  ドイツ
-  ポルトガル
-  スイス
-  オランダ
-  ハンガリー
-  フランス
-  チェコ **NEW**

アジア地域、ヨーロッパ地域を中心に**31の国と地域※**に展開中
既存取引国では、地域の特徴に即した展開を図りながら、
未進出国へ積極的にアプローチを進めています

Made in Nippon Japan Qualityを 世界へ

2019年

-  5月 ネパール出荷開始
-  6月 フランス出荷開始
-  8月 オーストラリア 現地法人を設立・出荷開始
-  8月 ベトナム ハノイ・ホーチミンそれぞれに
営業所を構え販路を拡大

2020年

-  4月 チェコ 出荷開始

アジア地域

-  中国
-  シンガポール
-  タイ
-  モンゴル
-  マレーシア
-  香港
-  マカオ
-  台湾
-  ベトナム
-  フィリピン
-  インドネシア
-  インド
-  レバノン
-  バングラデシュ
-  ネパール
-  オーストラリア

非コモディティ製品である医療用、検査用、 治療用コンタクトレンズ等の研究と商業化を進めています

角膜矯正用CL
(ナイトレンズ)



ブレスオーコレクト
(オルソケラトロジー)



スマートCL

トリガーフィッシュ センサー (角膜曲率変動測定計)
トリガーフィッシュ (テレメトリー式生体信号測定装置)



スリットランプ
METORI-50V
(スマートフォン設置型撮影装置)



わんタクト・にゃんタクト
(動物用バンテージ
コンタクトレンズ)



新しい光学デザイン
シード1dayPure EDOF
(遠近両用コンタクトレンズ)



RETISSA®Display II
《株式会社QDレーザ》

スマートグラス

近視チェック!



近視チェック
《横浜近視予防研究所株式会社》

他科への展開
内視鏡フード
(防汚・防曇効果の付与)

DDS※
花粉症対策

医療分野
新商材

近視抑制への
取り組み

次世代レンズ
etc...

デバイスとしての進化

医療分野への進出

※DDS(ドラッグデリバリーシステム)は薬の投与形態を工夫して、必要な場所に、必要な時、必要な量だけ作用させることで、薬の効果を最大限に発揮させようとする投与に関する概念

良き企業市民として、社会・地域との調和をはかり、その発展に貢献します

空き施設を子供たちの居場所支援を行う NPO法人へ貸出し

2019年の9月より当社の空きスペースをNPO法人サンカクシャとNPO法人居場所コムに貸出しを行っています。
主に、引きこもり、家庭や学校に居場所がない子どもたちや若者のための活動スペースとして利用していただいています。東京都文京区の社会福祉協議とも連携をしていますので、子供たちや若者は安心して楽しくゲームをしたり宿題をしています。

こころのバリアフリーなど積極的な 地域イベントへの参加

本社がある東京都文京区や工場がある埼玉県鴻巣市でのイベントに積極的に参加をしています。
アイメイト協会と一緒に盲導犬の歩行体験や、視覚障害の体験など、「見える」に関する分野で地域の皆様への啓蒙活動も行っています。

ベトナムにて「日本式コンタクトレンズ 専門検査処方クリニック」の設立

ベトナム社会主義共和国VINO (Vietnam Institute of National Ophthalmology) において、国内では初となる日本式コンタクトレンズ専門処方クリニックの設立に携わりました。
クリニックには専任の医師、オプトメトリスト、看護師の3名が常駐し、日本と同様に充実した設備や検査機器を備え、高い処方技術と共に、日本的なホスピタリティを患者様へ提供することが可能になりました。



【VINOについて】

VINOは、ベトナム国内において、全ての眼疾患にかかる調査、研究および技術の開発、医療の提供、眼科医療従事者への教育と訓練を使命とし、同時にベトナム国内における眼科医療ネットワークの中核機能を担うベトナム国内最高水準の国立眼科病院。

社員の多様性を尊重し、成長を支援することで 人材の質を高めていきます

ダイバーシティの基本概念

- ・個々人の「違い」を尊重し受け入れる
- ・職務に関係のない性別、年齢、国籍等の属性に係わらず、個人の成果、能力、貢献だけを評価する
- ・「違い」に係わらず、全社員が組織に平等に参画し、能力を最大限発揮できるようにする

能力重視の採用

障害者雇用

外国人雇用

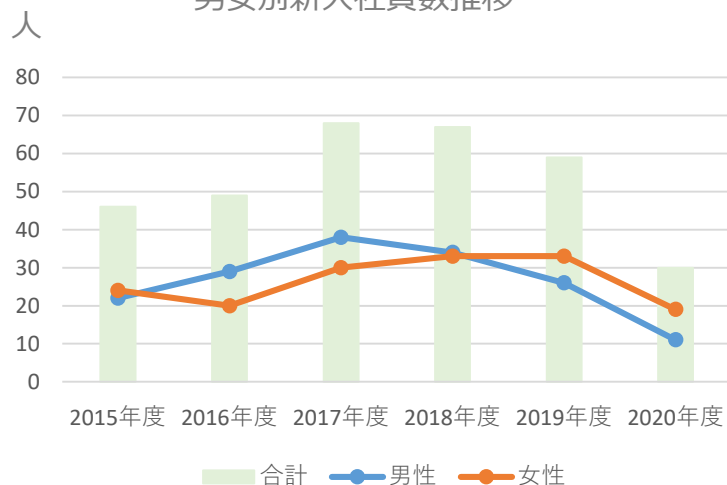
社員研修の充実

働きやすい施設や制度の整備

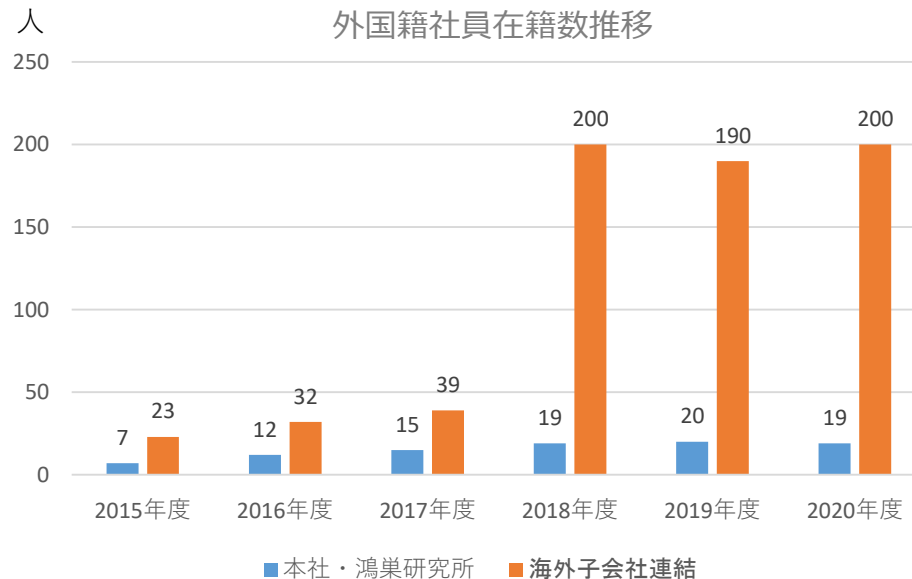
社員の健康への配慮

性別や国籍に関係なく様々な社員が活躍しています

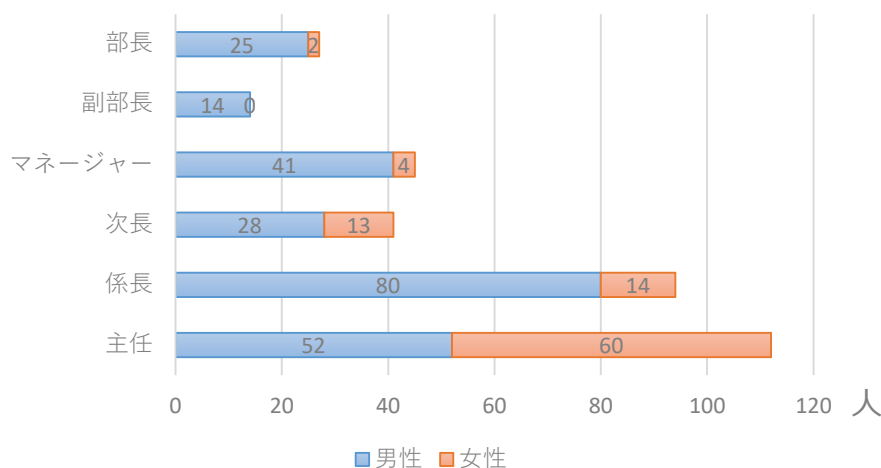
男女別新入社員数推移



外国籍社員在籍数推移



役職者数(2020年度)



男女を問わず、能力の高い新入社員の採用に力を入れており、男女比5:5となっています。

外国籍社員比率は単体2.9%(2020年3月現在)で、海外事業部、技術部、学術部等で活躍しています。さらに生産部では、12名のベトナム国籍の方を外国人技能実習生として受け入れており、国内では合計31名の外国籍社員が活躍しています。

また、海外子会社を含めると、外国籍社員比率は連結22%(2020年3月現在)となります。

障害がい雇用の支援や促進をしています

鴻巣研究所では様々な分野で障がい者の方にご活躍いただいています。
また、2019年4月度に障がい就労施設2施設より埼玉県への推薦をいただき、
埼玉県より「障害者就労施設応援企業」として認定されています。

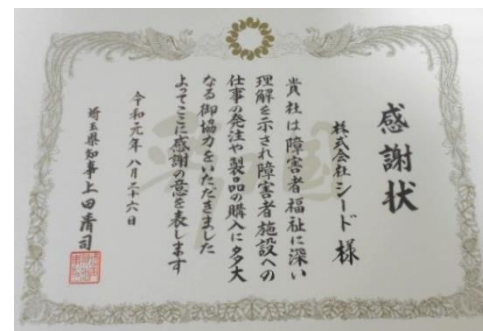
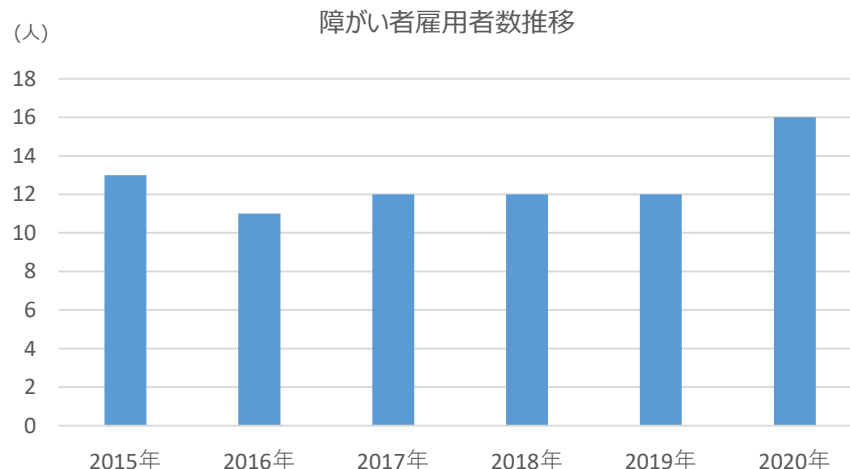
就労状況

働きやすい環境を整えるために
工場内をバリアフリー化しています

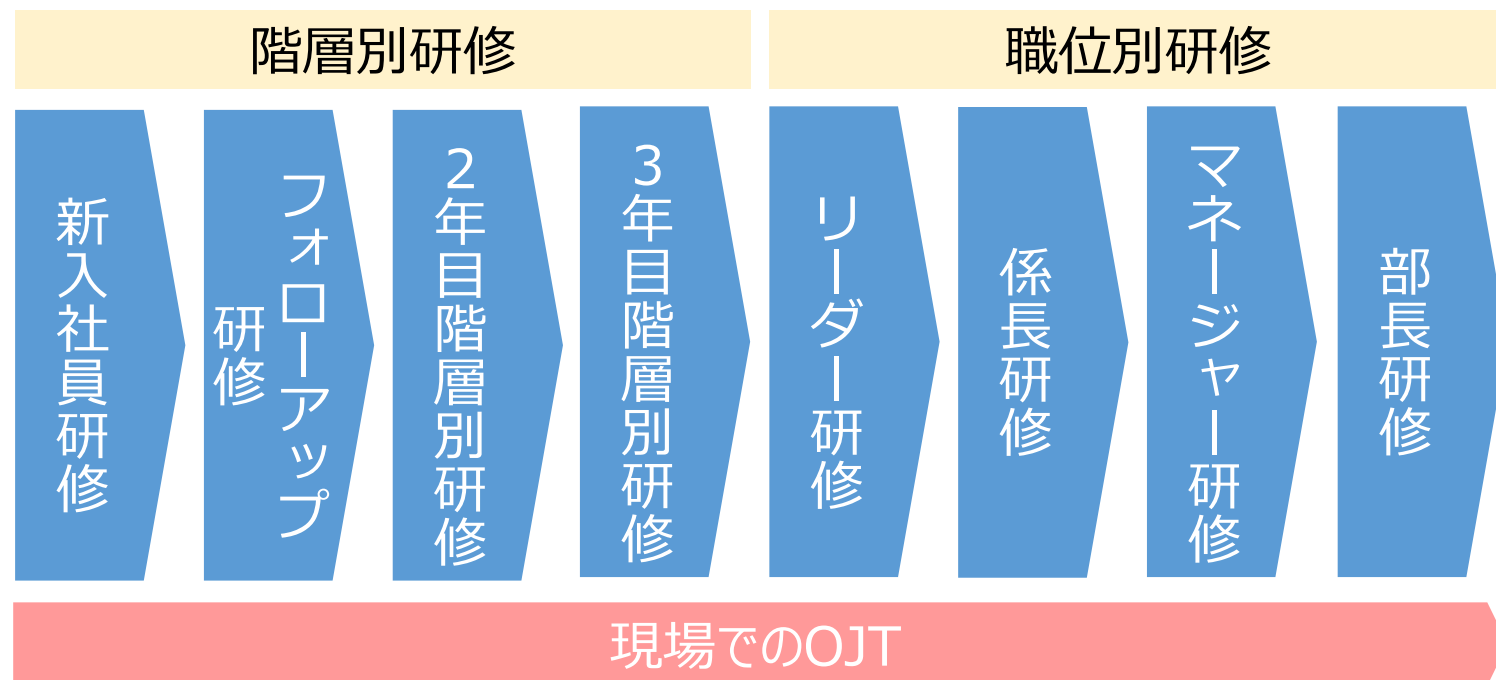
- ・コンタクトレンズの金型メンテナンス
- ・パレットの洗浄
- ・公共部清掃 他

障がい者就労施設の利用状況

- ・特定非営利活動法人グループコスモス
2～3号棟公共部清掃 5名
- ・社会福祉法人福潤の会
1号棟公共部清掃 3名 (いずれも引率職員除く)



環境変化に対応できる人材を育成する研修を体系的に構築しています



階層別研修：業務に必要な専門知識・スキルだけでなく、ビジネスマンとして必要とされる一般教養・知識についても義務教育的に学ばせます。

職位別研修：環境変化の中でも成果を創出し続けるためコンピテンシーを細分化し、能力開発に努めていきます。

主体的な学びを支援する多彩な自己啓発支援、 世代リーダー創出に向けた選抜研修、 海外戦略に対応する語学研修に力を入れています

自己啓発支援

通信教育 / eラーニング
公開講座 / 資格取得支援

選抜研修

国内外大学院派遣（MBAを含む各種学位取得支援制度）
社長塾 / 外部アセスメントプログラム（予定）

語学研修

TOEICテスト受験支援 / 選抜型英語研修
自己啓発型英語研修（スカイプ・eラーニング・通信教育・集合研修）

自分らしい働き方で、社員が自己実現できるよう 環境の整備を行っています

保育・児童施設 ふくろうの森

2018年4月1日より、鴻巣研究所隣接地に、複合型の保育・児童施設ふくろうの森を開園。時短制度や育児休暇制度と合わせて、男女の別なく自分らしいかわり方で仕事と育児を両立することが可能です。

《施設概要》

ふくろうの森保育園（認可保育園/定員90名）

シード保育園（企業主導型保育園/定員19名）

学童保育ふくろうの森（放課後児童クラブ/定員70名）

PICK UP

シード保育園の特徴

全員好きなタイミングで入園でき、**復帰タイミングが自由**
開園時間が長いので、**時短・フルタイム・パート勤務が可能**
学童を併設し小学校6年生まで預けられる安心感

2019年度女性社員の

- 育児休暇取得率 100%
- 復帰後定着率 100%
- 出産による退職者 0人



ハラスメント研修の開催

ハラスメントは、個人としての尊厳を不当に傷つける社会的に許されない行為であるとともに、働く人が能力を十分に発揮することの妨げにもなるとの考え方から、従業員にとって働きやすい職場環境づくりに向け社員研修を行っています。また、企業として以下のような総合的な対策も講じています。

主な対象ハラスメント

- ・セクシュアルハラスメント・パワーハラスメント
- ・妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント

具体的な対策

- ・就業規則に記載することによる周知
- ・管理職層を対象とした研修の実施
- ・社内弁護士及び監査役との相談窓口

在宅勤務・フレックス制度

自身や家族の都合に合わせた自由な勤務形態を可能にすることで、家族の介護が必要になった場合にも、退職することなく働きつづけることができます。社員が働く時間や場所を選択できることによって、一人ひとりが働きやすい環境を整備しています。

社員の健康を守ることで、業務効率化および安全操業を推進しています

健康相談窓口

産業医による相談窓口。業務が原因と考えられる健康問題の相談、一般的なこころと体の健康相談、適切な医療機関の紹介をしています。

セルフチェック相談会

心療内科医による、直接面談会。休職後の復職に備えて等、会社指示で面談をセッティングする場合があります。

ストレスチェック

自分のストレス度合いを把握するため、年1回Webで実施。高ストレス判定かつ産業医が面談を必要と判断した社員が希望した場合、産業医との面談機会を設けます。

VDT検診

VDT（Visual Display Terminals）とは、パソコンの画面等の画像表示端末を意味し、職場でコンピューターを使用するVDT作業者のうち、身体的疲労等の自覚症状がある方は約8割いるとされています。この問題に対応するため、厚生労働省は「VDT作業における労働衛生管理のためのガイドライン」を制定しましたVDTの作業種類及び時間によって区分し、その区分に応じてVDT作業者に対して健康診断を受診するよう推奨しています。

禁煙推奨

社員の健康のため、就業時間内の禁煙を徹底します。

インフルエンザ予防接種の補助

毎年本社と研究所では業務遂行に支障を来さないよう、産業医による予防接種を行います。また、費用の一部を経費で負担しています。

風疹の抗体検査と予防接種補助

自身の予防と、家族や職場の同僚を守るため、抗体検査および予防接種等、風疹予防対策を推奨しています。

健康診断の受診

全社員が血液検査に加え、心電図・腹囲計測を全額会社負担で受診することができます。さらに、女性30歳以上、男性40歳以上を対象として2年ごとに節目健診を設け、全額会社負担とします。女性は40歳以上は子宮頸部検査、乳房診検査、男女ともに40歳以上で内視鏡の検査が受診できます。さらに50歳以上ではこちらも2年ごとに、MRIの費用を半額会社が負担します。

鴻巣研究所でのラジオ体操

鴻巣研究所では毎朝始業時にラジオ体操をおこない、操業時の事故防止に努めています。

従業員の健康・安全確保を最優先に対処しながら、 医療機器メーカーとしての供給義務責任を全うする 最大公約数の対応を遂行しました

従業員への対応

- ・手洗い、アルコール消毒の励行、及び入館時の検温、体調チェックを義務付
- ・在宅勤務（在宅比率：4・5月 約50～70%、6月以降も実施）
- ・フレックスタイム制度を利用した時差出勤の励行
- ・高熱等の症状がある場合は、自宅待機対応
- ・多人数の会議を中止し、T V 会議、電話会議を奨励

生産体制

- ・正常生産体制を継続
- ・生産に必要な材料・資材確保を実施、生産品目の優先順位を検討
- ・衛生管理の徹底
- ・鴻巣研究所内のマスク着用の義務化

受注・物流体制

- ・正常出荷体制を継続
- ・感染者発生に備え、受注業務を2班の交代制かつ複数拠点体制へ変更
- ・不測の事態に備えた在庫確保

営業活動

- ・医療機関や販売施設への訪問は、緊急事態宣言解除後から徐々に再開
- ・海外拠点は各国政府等の要請に応えながらフレキシブルに対応

新型コロナウイルス感染症拡大による市場変化と影響

国内

- ・医療機関・販売施設への来院・来店を控えることによる売上減少
- ・デパートやショッピングモール等の営業自粛により、コンタクトレンズ販売店が休業
ピーク時：チェーン店店舗の約40%休業※⇒6月上旬より概ね再開

※当社調べ

海外

- ・海外代理店に対する出荷が大幅に遅延したものの、徐々に正常化

商品展開

- ・在宅勤務やマスク着用によるサークル・カラーコンタクトレンズの需要減少

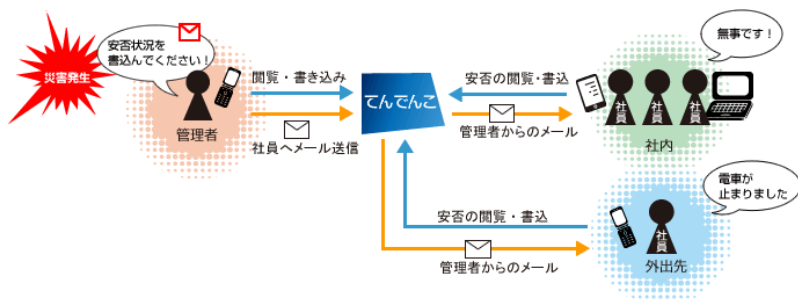
環境変化に適応する経営体制構築をおこなう

- デパートやモール等へ出店するチェーン店を中心に、各販売施設に応じた顧客確保施策を提案
- インターネットへの不可逆的なシフト発生や変化する販売チャネルへの対応強化
- サークルレンズから単焦点クリアレンズ(Pure/Fine)へのシフトを注視し、商品構成の変化へ対応
- 有事の場合に対応できる資金の確保
- 海外も先行きが不透明な状況が当面継続するが、変化する状況に即応しながら、事業活動を継続

地震など自然災害に対する事前の備え、災害時の 応急対応、発生後の復旧・復興にいち早く取り組みます

安否確認システム てんでんこ

災害発生時に送信担当者が安否確認を求めることができるシステム「てんでんこ」を導入しています。メールを一斉配信し、これに対し社員が安否登録をすることで、安否登録をした全ての連絡内容を社員が確認できるシステムです。また連絡事項や状況を書きこむ掲示板としても利用することもできます。



防災関連グッズの支給

ヘルメット・緊急避難用のヘッドカバー
非常食セット・ホイッスルを支給しデスクや営業車
内の保管を義務付けています。

図上・避難訓練

参加者が自ら災害時に想定されるリスクを考える
図上訓練をBCPプロジェクトが主体となり行って
います。また、地震や火災などの災害が発生した際、
当社従業員の身の安全を確保するために年に一度、
本社と鴻巣研究所で避難訓練を実施しています。

包括協定

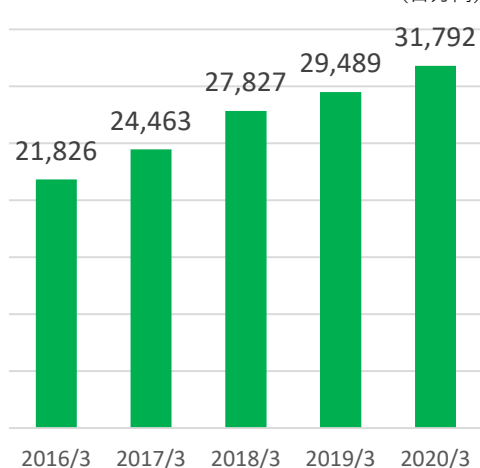
平成30年3月23日にシードの工場が所在している
埼玉県鴻巣市と包括協定を結びました。様々な
分野で相互に協力し、災害時を含め、
人口、経済、地域社会の課題に対し、協働した
取組等を行うことにより、地域の人々が安心して
暮らし、働き、子どもを生み育てられる社会の実現に
資することを目的とした包括的な連携に関する
協定書を締結しました。

成長性・収益性・安全性を重視し、 ステークホルダーの期待に応えられる経営を継続してまいります

◆成長性指標

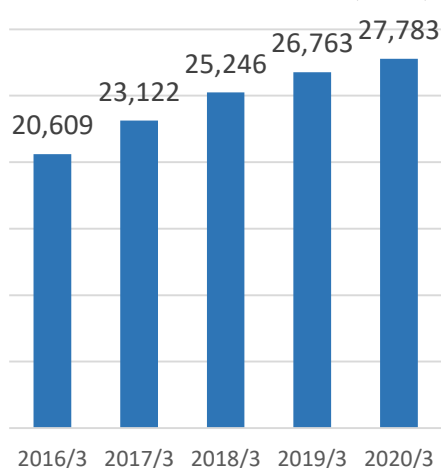
①売上高（連結）

（百万円）



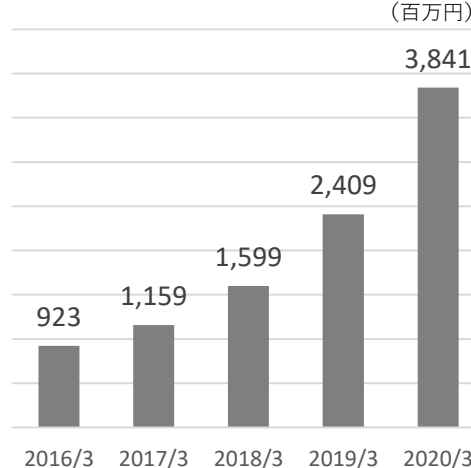
②売上高（単体）

（百万円）



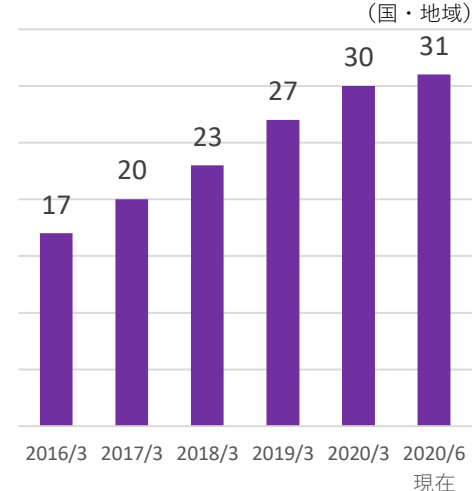
③海外売上高

（百万円）



④海外出荷国・地域数

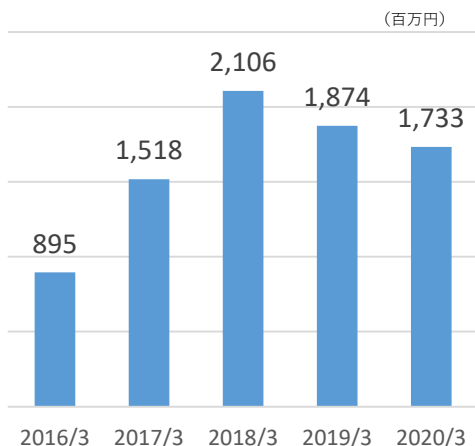
（国・地域）



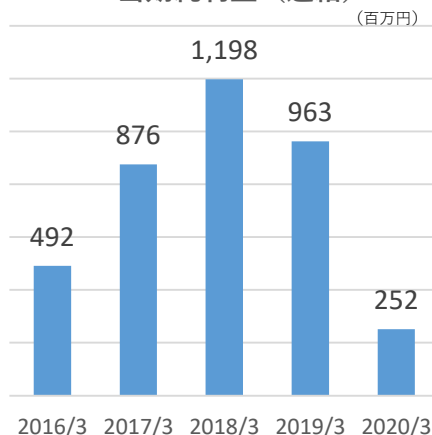
コンタクトレンズ事業において、「ワンデーピュアシリーズ」を中心として、マーケットニーズに即した新商品を投入してきたこと、及び積極的な海外進出・M&Aにより海外売上高が伸長したこと等により、2020年3月期にはグループ初となる300億円を突破し、連結・単体とも5期連続の増収を達成しました。今後も引き続き成長できるよう、グループ一同、取り組んでまいります。

◆収益性指標

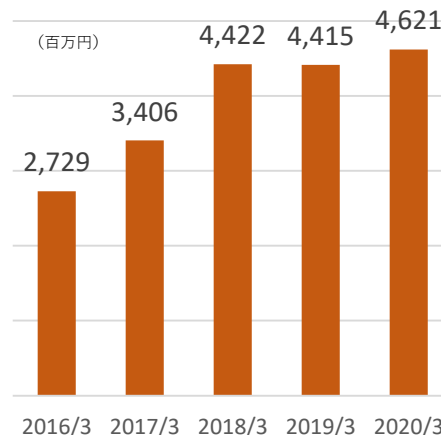
①営業利益（連結）



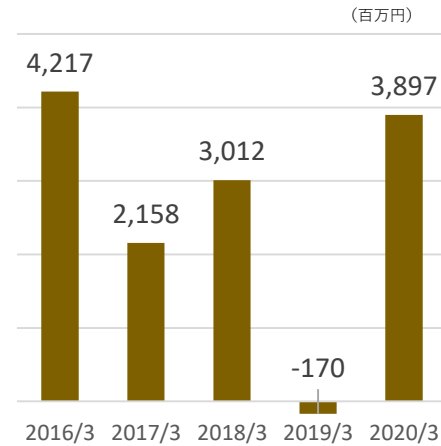
②親会社株主に帰属する
当期純利益（連結）



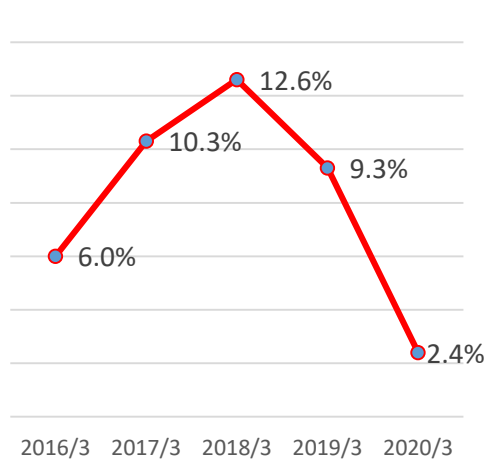
③EBITDA



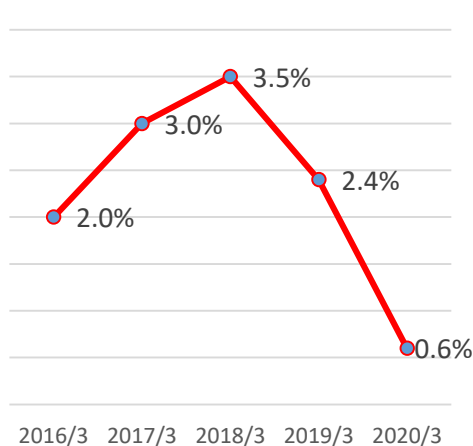
④営業キャッシュフロー



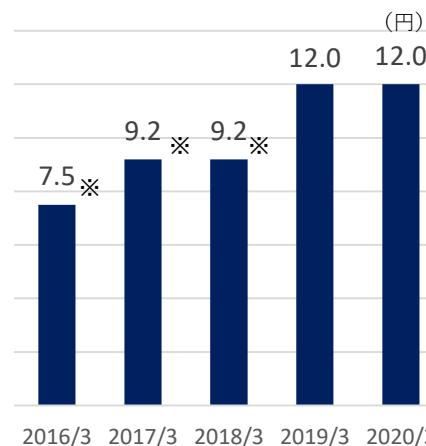
⑤ROE



⑥ROA



【参考】1株当たり配当金

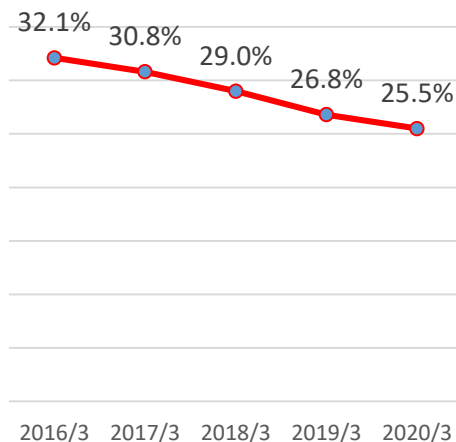


※2016/3に株式分割が行われたと仮定して算出

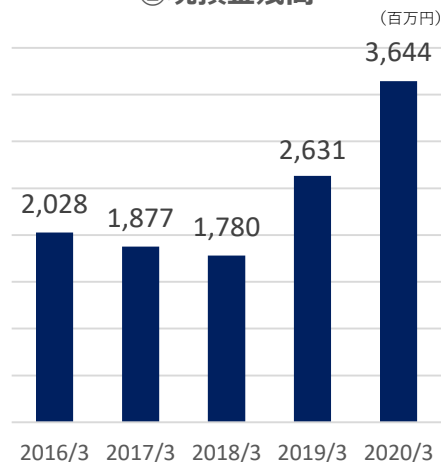
積極的な投資及び特別損失の計上等により、各利益・ROE・ROA等の指標に課題はありますが、キャッシュ創造能力の指標となるEBITDA・営業キャッシュフローは増加しており、今後もレバレッジとのバランスを意識した経営に取り組んでまいります。

◆安全性指標

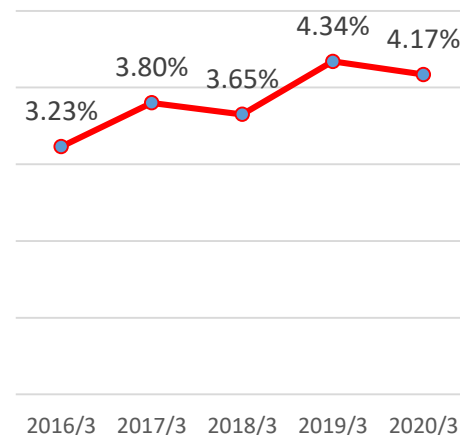
①自己資本比率



②現預金残高



③EBITDA有利子負債倍率 ※



※NET債務総額（現預金残高控除後）/EBITDA

将来的な成長につながる資金需要を確保したことにより、自己資本比率は近年低下傾向にありますが、十分な手元資金を有しており、当社がベンチマークとするEBITDA有利子負債倍率5.0%以下を維持しております。今後、成長投資を結実させ、利益を増加させること等により、自己資本の充実と借入金の最適化に取り組み、安全性を重視した経営を行ってまいります。



「見える」をサポートします

本資料に関するお問い合わせ

株式会社シード 経営企画部 社長室

TEL 03-3813-1650

またはホームページお問い合わせフォーム

<https://www.seed.co.jp/contact/>